

神のみわざを見て信じる

出エジプト記一四章19〜31節

イスラエルは、主がエジプト人に行われた大いなる業を見た。

民は主を畏れ、主とその僕モーセを信じた。(31)

紅海を目の前にして、神の言葉の通りにモーセが手を差し伸べると、海は二つに分かれ、そこに道ができました。民はモーセの言葉に従って勇気を出してその中を歩いて行きました。海水が逆流するのではないかと恐れて岸边にたたずんでは、危機から救われることはありませんでした。人々は信仰をもって一歩を踏み出したのです。これにより、彼らはエジプト軍から完全に救われました。「主の救いを見なさい」という言葉に呼応して、この章の終わりには「見た」と繰り返し報告されています。驚くべき神のみわざを見たとき、彼らは改めて「主とその僕モーセを信じた」というのです。神の言葉への信仰が神のみわざを見ることとなり、見たことよってさらに確かな信仰が呼び起こされたのです。私たちも信じて見、見て信じるという信仰の循環の中を歩ませていただきたいものです。